

# 議会機能向上推進委員会ワクワク未来部会 調査報告書

1 調査年月日	令和6年7月24日(水)
2 調査参加者	ワクワク未来部会: 竹村知子、押田慶一、藤井邦彦、竹村誉、氣賀澤葉子、 中山万宝 議会事務局: 春日隆志、伊藤優子
3 調査事項 及び調査地	1. 市民フリースピーチ制度他について(犬山市議会) 2. 高校生議会の取り組みについて(知立市議会)

## 調査の概要

### 1. 市民フリースピーチ制度他について(犬山市議会)

#### 【犬山市概要】

視察先	愛知県犬山市	
日時	7月24日(水) 10:00~11:30	
住所・連絡先	〒484-8501 愛知県犬山市大字犬山字東畑36 Tel:0568-44-0307(議会事務局)	
犬山市概要	市長	原 欣伸(はら よしのぶ)
	人口	71,521人(R6.3現在)
	面積	74.90km <sup>2</sup>
	市の花	さくら
	市の木	カナメモチ
犬山市議会概要	議長	柴田 浩行(しばた ひろゆき)
	副議長	諏訪 毅(すわ たけし)
	定数	20

#### 【事業概要】

##### ▶犬山市主権者教育の取り組み

犬山市では、主権者教育に関する条例制定、犬山市主権者教育アドバイザー設置、市内小中学校における選挙出前トークなどの主権者教育推進、選挙手帳の配布などの事業をはじめ、選挙管理委員会の愛称を「ゆめ選挙創造委員会」とするなど、投票率アップに向けた取り組みを推進している。名古屋経済大学法学部高橋教授をアドバイザーに、市内小学校における選挙出前トークでの講義や体験(ゲーム、模擬投票、投票用紙を破いてみよう体験など)、毎年3校ずつローテーションにより実施。また、市内中学校では、学校生活における課題に対して、生徒が主体となり政策立案し、全校生徒による投票で決定した事業に対し選挙管理委員会から補助を行う事業を実施している(30万円×4校=120万円)。

##### ▶市民フリースピーチ制度

市民参加の機会の一つとして、市政への関心を高めること、市民意見を市政に反映させる議会活動を行うことを目的に導入。定例議会開催期間に市民が議員に対し市政に関して5分間自由に発言できる。意見は全員協議会における議員間討議を経て、必要に応じて申し入れなどを行い、協議結果はホ

ホームページ等で公開する。令和4年までに48人が制度を利用しているが、60代以上が過半数を占めており、10代1名、20代無と若年層参加が少ない（約4割がリピーター）。このような状況の中、令和5年度は市内県立高校に全議員が出向く形でフリースピーチを開催している。

#### ▶親子議場見学会

議会を身近に感じていただくことを目的に平成28年度から実施。対象は小学生とその保護者で、動画による概要説明→議場見学→議員に質問→議会に関するクイズラリーなどを行っている。親子で参加することで選挙への関心につながることを期待している。

#### ▶議員間討議

本会議で議論の結果「議会全体の意思表示」が必要となった場合（議長判断）や常任委員会での議論を深める（委員長判断）ために実施。平成23年度には議会基本条例に「討議の促進」を盛り込んでいる。定例議会中に一般質問や上程議案の内容等を協議する全員協議会に加えて、常任委員会では議案説明・質疑後に討議を行っている。

### 【考察】

#### <主権者教育>

- ・主権者教育の条例は、「…市民が国や地域の問題を自分事として捉え…選挙を通じて民主主義がより健全に機能する地域社会をつくる」と明記しており、その中で、より身近に選挙を感じていただけるよう、選挙管理委員会の愛称を「ゆめ選挙創造委員会」とするなど、市民に感心を喚起する発想はコロナ禍もあって定着していない感もあるようだが、アクションを起こす熱意が感じられ、学ぶべき発想と感じた。
- ・主権者教育アドバイザーの設置、小中学校の選挙出前トークなどの試み、選挙手帳の採用などは、行政側が主権者教育の必要性を認識して実現させており、当市の行政機関もより積極的に主権者教育に乗り出す喚起を、議会側としても一般質問等の機会を使い促す必要性を感じた。
- ・当市でも年々投票率は下がる一方で、以前、一般質問で「行政側で子ども議会を行っては？」と提案したが全く無理であった。市や教育委員会がもっと積極的に投票率向上や主権者教育を推進するためのアクションを起こしたほうが良いと感じる。
- ・選管からの補助支援（各学校に30万円）により、中学生が課題について立案・投票する事業（計画立案から実現まで生徒自身で行い実現する）の取り組みは、自分ごととして社会や行政について考える良い機会だと思う。主権者教育には最適の取り組みであり当市でも検討してはどうかと感じた。
- ・若い世代への投票啓発活動として作成している選挙手帳は良いアイデアで当市へも提案したい。（18歳になったら配布する「選挙手帳」は例年700冊だが一生で約100回も選挙に行くというのには驚いた。）
- ・R5年度の事業費は990,558円。例えば、当市が主権者教育にかかる費用としてこの金額が高いか低いか。市民が主権者としての意識を高め、投票率向上や議会・行政に関心を持ってもらうための未来への投資と考えればそれは有効ではないか。
- ・主権者教育は投票率向上のためだけのものではないが、小学生の頃から議場や議会に触れ、中学・高校生へと段階的に取り組んでいくことが大事だと考える。当市議会が行っている子ども議場見学や子ども未来会議（中学生議会）、今年計画している高校生とのコラボ企画も含め、改めて大事な取り組みであると思う。継続性が大事であり、今後20代・30代の若者世代にもアプローチできれば良いと考える。

- ・市、教育委員会、学校、市民などとの連携・情報共有が重要である。
- ・市長とのコミュニケーションの方法、市長の意思（リーダーシップ）、選管の動きは参考になった。
- ・選管の長の役割（元市長）が重要。どの組織もリーダーシップが重要。
- ・主権者教育は、市長（執行側）行政・議会が目的を同一にすることが重要。
- ・選挙手帳の配布は、面白いアイデアではあるが、移住や2地域居住といった人口の流動化が進む時代にあっては、全国どこでも使えるよう、今後、国が音頭を取って事業展開すれば面白いように感じた。

#### <フリースピーチ制度>

- ・課題として、リピーターが多いこと（意見が偏る）、60代以上が過半数（その年代の課題が多く上がる）などとなっているほか、高校生は自分の意見・要望を実現してくれるものと思っているのでフィードバックが難しい。
- ・この取り組みは、多様な市民が議会で発言する機会を確保するもので、駒ヶ根市議会としても広範な市民意見を聴き・参考にし、市政を前進させる上でも大変学ぶべき取り組みであり、駒ヶ根版のフリースピーチを検討していく必要性を感じた。
- ・フリースピーチ・女性議会・市民との意見交換会・親子議場見学会など声を聴くチャンネルをいくつも持ち、全協で討議し、市への提言や一般質問に繋げ反映させていくことは、今後、駒ヶ根市でも取り入れるべきだと感じた。同時に聴いたことに対するフィードバックを行うことも主権者意識向上の意味においても必要だと感じた。
- ・駒ヶ根市議会として良い点は取り入れながら、定例会後常にというよりも年1回程度は行いたいと思った。
- ・意見交換会や常任委員会のヒアリングも必要だと感じた。
- ・若い人からの意見をということで、高校生との取り組みを始めたとのことであるが、高校生との意見交換会では、選挙に重点が置かれたため駒ヶ根独自のものを行いたい。

#### <親子議場見学会>

- ・親子会議は参考になった。この取り組みは、目的を明確にした上で私たちとしても今後取り入れるようにしたい。



#### <議会活動他>

- ・令和5年からの通年議会はデメリットがあまりないということだが、議会運営の諸手続きを考えると採用もありかなと思う。専決処分はあるが500万円までとしており問題はないかと思う。諸問題検討解決のスピード化にもつながるのでは。
- ・各委員会において年間二つの議題に絞って視察及び事業評価を行うことは参考になる。
- ・議員間討論の必要性を強く感じた。全協で議員間討論をしっかりと行っていることが素晴らしい。
- ・当議会でも全協や常任委員会で意見交換、討議をさらに行っていくのが望ましいと考える。
- ・代表者会は人事の時だけ開き、情報伝達などは全



協に一本化することで情報内容が薄まるリスクもなくなり、また無党派であっても等しく情報が得られるため、月一全協は有効だと感じた。

- ・テーマを絞りつつ、議員間で討議して政策提言に結びつけていけるように、駒ヶ根市議会ならではの堅苦しくなく実践していけたらと思う。

## 2. 高校生議会の取り組みについて（知立市議会）

### 【知立市概要】

視察先	愛知県知立市	
日時	7月24日(水) 14:00~15:30	
住所・連絡先	〒472-8666 愛知県知立市広見三丁目1番地 TEL:0566-95-0137(議会事務局)	
知立市概要	市長	林 郁夫(はやしいくお)
	人口	72,419人(R6.6現在)
	面積	16.31km <sup>2</sup>
	市の花	かきつばた
	市の木	けやき
知立市議会概要	議長	小林 昭弑(こばやししょういち)
	副議長	山崎 りょうじ(やまざき りょうじ)
	定数	20

### 【事業概要】

選挙年齢引き下げにより、政治や選挙が身近になった高校生に議会活動を体験してもらい、地方自治への関心を高めてもらうとともに、高校生の視点から広くまちづくりについての意見を聞き協議する機会を設けることを目的として実施。2020年の市制施行50周年に合わせた企画であったがコロナ禍により中止となる中、高校側・議会側とも開催意欲があり、翌年に議会報告会の代替えとして開催した。議会改革特別委員会に高校生議会部会を設置し、市内3校と協議。高校生議会実施要領を作成し、各回、開催方法を検討・変更しながら実施（準備は第1回が夏休み、第2回は冬休みとし、この流れが1クール。第2回の内容は要望書としてまとめ市長へ報告書として提出）している。令和5年度には法政大学土山教授の助言により新たな方法（土山教授をファシリテーターとして、高校生の意見を対話のテーマとして議員を交えて協議）で実施している。結果として、形式的な一般質問方式ではなく、高校生と議員が生のやり取りをすることにより、様々な意見が活発に出され、高校生にとって「議会や議員を身近な存在として感じる事ができた」「自分たちの意見が反映されるとうれしい」など前向きな感想が多く出ている。

### 【考察】

#### <高校生議会>

- ・高校生の提言内容は素晴らしいが実現性に疑問が残る。（実現可能なテーマを取り上げ、一般の方も対象にしたとのこと。）
- ・土山教授をファシリテーターに迎えての研修は有効であると思う。
- ・講師（法政大の土山希美枝教授）を招いて対話する仕掛けを用いたのが効果を表している。新聞報道では、議会主導によるワークショップ形式の高校生議会は全国的にも珍しいとのことであるが、駒ヶ根市議会においても今年度、企画・実践しようとしているので、手探り状態ではあるが綿密に計画し、学校との連携も密に行うことが重要である。
- ・教育の機会として活かしたい高校側と、若き市民の声を聴くという議会側との連携や調整が必要

であるとのこと（「高校生議会を主権者教育と議会が称するのは、教育を軽く見てはいないか」との土山教授のコメントあり）。知立市議会の高校生議会が3回目ともなると深掘した内容になっていくのかと思う。当議会は初めてなので、できるだけやれることはやってみようという気持ちで臨みたい。

- ・知立市は、法政大学土山教授をファシリテーターとして高校生議会に招聘しているが、駒ヶ根市議会が計画している赤穂高校とのコラボ企画においても、ファシリテートする専門家が必要だと感じた。また、事前に高校生が調べてくる点も重要だと思った。
- ・高校の先生には議会は執行部ではないこと、高校生には皆さんと一緒に考えていくという意志をしっかりと伝えることが重要。
- ・高校生側に主体性をおき、高校生から出されたテーマをもとに取り組んでいることに感心する。駒ヶ根市議会もこれから取り組みを進めていく上で、誰のための高校生議会かを主眼におき進めていくことが重要である。
- ・形式的な一般質問のようなやりとりではなく、高校生と議員が生々のやりとりをすることこそ大事であり、当市議会も試行錯誤しながらもそのような方向で進めるべきと感じた。
- ・SDGs と結びつけている点は良い。
- ・高校生議会は3年目を迎える中で、課題もあるが継続が重要である。
- ・子ども議会含め意見をよく聴くことで市政に反映させている。議員が話しすぎないことが大事。
- ・準備・調査から議会当日、その後のフィードバックまで、議員・生徒ともかなりの時間と労力を要するが、そのことにより両者ともに得られるものは大きいと感じた。
- ・高校生議会が、主権者教育をする側とされる側という関係で行われるのではなく、議員も高校生も、同じ一市民という対等な関係で行われることを基本としており、人としてリスペクトしあいながら行われることで、議員にとっても高校生にとってもより大きな学びとなる可能性を感じた。
- ・議会改革の「市民に開かれた議会」の一環として、議会広報モニター制度と高校生議会を位置付けていることは、主権者教育と共に大切な視点だと思った。また、今年度の赤穂高校との取り組みをしっかりと考えていけるアドバイスが多かった。
- ・高校生との意見交換会を経て、議会として政策に纏められるかが問われており、現在実践中のツキニミーティングの成果が問われる。

#### <その他>

- ・知立市議会のオンライン議会報告など、ハイブリッド方式を使った取り組みは、駒ヶ根市議会で行うには設備上の不十分さはあるが、色々な市民と気軽に交流・交信する機会を得る上で、一つの参考になる発想と感じた。



#### 【全体を通じて】

- ・どの自治体も、選挙における投票率は下がっていることへの危機感と、主権者教育の重要性を認識し、さまざまな手法で主権者意識の向上に努めているが、正解は未だないと感じた。一つの手法や考えにとらわれず、時間をかけ、柔軟な思考と Trial&Error の精神で取り組む課題であると感じた視察だった。



